



ろうさい病院つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.johas.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

脳神経外科部長就任の挨拶と脳出血に 対する神経内視鏡手術について

脳神経外科部長 松平 哲史



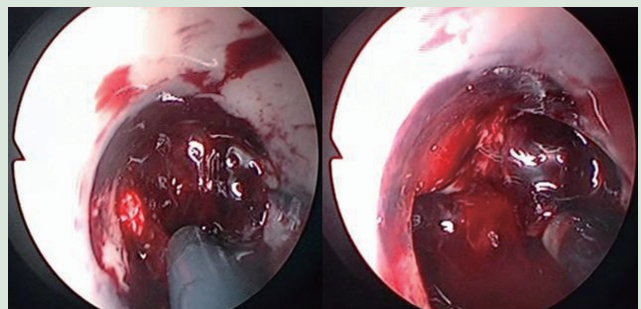
この度、平成29年4月より前任の海南病院から当院脳神経外科部長として着任いたしました 松平 哲史 と申します。これから脳神経外科に関するすべての診療にかかわってまいります。

我が国では超高齢社会に突入し、高齢者特有の疾患に加え転倒や交通事故による頭部外傷も増加傾向にあり高齢者救急搬送件数も増えていく一方です。その一つが脳卒中による搬送です。現在死因第4位の疾患であり後遺症は患者さんのADLに大きく影響する為、予防医学による生活習慣病や不整脈の管理がますます重要になるかと思われます。日ごろからその診療に従事されている先生方には大変感謝をいたしている次第です。

さて、昨今脳神経外科手術といえば御周知の顕微鏡手術の他、カテーテルによる血管内手術もメジャーとなりました。その中に新しく内視鏡での手術が近年増加傾向にあります。内視鏡といえば消化器領域や呼吸器領域で使用されるイメージですが、脳神経外科領域でも脳卒中の一つである脳出血に対し開頭ではなく穿頭手術の範囲内で血腫を摘出する手術があります（内視鏡的血腫除去術）。局所麻酔下にて数cmの皮膚切開で手術可能な為、高齢者にも適応となり、結果早期離床および回復期リハへのスムーズな移行が可能となります。4月からは脳神経外科医も3名体制となり、また6月には最新の4K画像システム内視鏡が導入される予定で、よりスムーズな脳神経外科診療や手術を行える体制が整いつつあります。今後、先生方からの紹介窓口として引き続き当科をご利用頂ければ幸いと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



4K内視鏡システム



内視鏡的血腫除去術

泌尿器科部長就任のご挨拶

泌尿器科部長 高木 康治



当院連携医の先生方には、平素より大変お世話になり御礼申し上げます。40年間この地域の泌尿器科医療に尽力されてきました小谷俊一泌尿器科部長が定年退職され、その後任として平成29年4月1日付けで名鉄病院から赴任して参りました。

私は名古屋市出身で、昭和62年に宮崎医科大学（現宮崎大学医学部）を卒業しました。前任地の名鉄病院では腹腔鏡下小切開手術を導入して泌尿器科悪性腫瘍の低侵襲手術に力を入れ診療を行ってきました。腹腔鏡下小切開手術は臓器の摘出に必要最低限の大きさの単一切開創をおき、創縁から挿入した内視鏡観察下（一部直視併用）にこの単一創から手術操作を行う術式です。トロッカーポートの留置、ガスによる気腹操作を必要とする腹腔鏡手術とは似て非なる手術です。患者さん、医師双方の要求をほぼ満たす低侵襲手術と考えられています。日本では泌尿器科においてロボット支援手術がいち早く導入された関係もあり、腹腔鏡手術の研鑽にも励んで参りました。当院でも4月から名古屋大学泌尿器科の協力のもと泌尿器科悪性腫瘍に対して腹腔鏡手術を開始しております。

また、ホルミウムやグレーザーシステム（内視鏡的尿路結石破碎用）を導入し、尿路結石症に対して尿管鏡を用いた内視鏡手術も4月から行っております。体外衝撃波結石破碎装置はすでに導入されており、尿路結石症に対してより効果的な低侵襲治療を行うことが可能になりました。当科にはすでに泌尿器科専門医（木村医師、坂元医師）が2名在籍しており、彼らと共に泌尿器科悪性腫瘍、尿路結石症に対する低侵襲治療に力を入れて日々の診療に励み、微力ながら地域の患者さんのお役に立てればと考えております。なお小谷前泌尿器科部長が築き上げた性機能外来も引き続き診療させていただいておりますのでご安心ください。

最後になりますが、連携医の皆様のますますのご発展をお祈りし、今後とも当院泌尿器科へのご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。私の就任のご挨拶とさせていただきます。

当院における最近の糖尿病診療について

糖尿病・内分泌内科副部長 草間 実



先生方には平素より地域医療連携の推進に多大なるご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、当院の糖尿病センターでございますが、外来通院患者さんは約3,000人超であり、糖尿病を基礎疾患にして様々な背景を持つ患者さんに対し、治療の「個別化」の元で医師、糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士など様々な職種が一体となり、チーム医療を提供させていただいております。

従来通り、糖尿病教育入院では合併症精査は勿論、糖尿病教室の開催や個別での栄養指導などきめ細やかな医療の提供を行っております。また昨年度はDST (Diabetes support team) の活動の一環として、世界糖尿病デーにあわせて

アピタ東海通店さん内のスペースをお借りし、一般市民の方への啓蒙イベント活動や、患者さんやそのご家族に対してクッキング教室の開催なども行わせていただきました。本年度も様々な企画をご用意し、この地域における糖尿病診療の中心として活動していく所存であります。

また近年、GLP-1受容体作動薬やSGLT-2阻害薬、新しいインスリン注射薬など糖尿病治療薬の進歩が目立っておりますが、CSII (持続皮下インスリン注入シリンジポンプ) やCGM (24時間持続血糖測定) などの糖尿病と寄り添って生活されている方々の療養面を支援してくれるデバイスの発展も目覚ましいものがございます。当院でも患者さんの病態把握、治療の一環として最新の機器を選択・活用して診療にあたっております。先生方の患者さん(血糖コントロールに難渋されておられる方はもちろん、特に1型糖尿病の方や頻回の自己血糖測定を必要とされている方など) でご興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら是非、ご紹介いただけますと有難いです。

今後も先生方のご協力をいただきながら、糖尿病をはじめとする生活習慣病・慢性疾患の治療に当たらせていただきます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



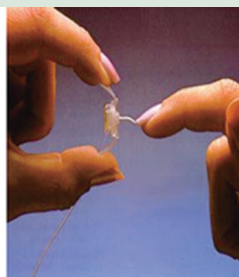
2016年度の世界糖尿病デーでのイベント



DST活動でのクッキング教室



穿刺の必要なく、リアルタイムで瞬時の血糖値把握が可能になったFreeStyleリブレ



リアルタイムに血糖値を把握しながら、インスリン注入が可能になったSAP療法

地域医療連携室だより

4月より地域医療連携を担当することとなりました医事課の峯垣と申します。中部ろうさい病院は今後も地域医療連携に力を入れてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、この4月からは診療科の体制が充実してまいりました。脳神経外科については新しく松平哲史部長をお迎えし、3人体制となり、他院にお願いしていた難しい症例や、頭部外傷等の救急医療についても、より充実した体制で対応できるようになりました。小児科につきましては、1名増員となり、岩田誠子先生をお迎えし、さらに外来診療の幅が広がりました。泌尿器科につきましては、3月末で小谷部長がご勇退され、新しく高木康治部長をお迎えしました。尿路結石に対するf-TUL（内視鏡レーザーによる結石破砕）や、腹腔鏡による尿路悪性腫瘍手術などが可能となりました。また、性機能外来につきましては、引き続き小谷先生が木曜日の午後、坂元先生が水曜日の午後に診療を継続しております。他にも新しい医師や職員をお迎えしており、当院での治療や検査でお力になれる患者さんがおられましたら、ぜひご紹介いただきますようお願いいたします。

先生方のお力をお借りできれば、当院の職員はより力を発揮でき、以前にもまして先生方のお役に立つことができますので、今後とも引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医師交代

★定年退職

(平成29年3月31日付け)

小谷 俊一 泌尿器科部長

★退職

(平成29年3月31日付け)

加藤 文一 第二検査科部長

松原 功明 脳神経外科部長

下川 秀彦 呼吸器外科副部長

宇佐見 一公 歯科口腔外科副部長

下野 哲典 神経内科医師

上間 貴仁 腎臓内科医師

尾関 俊和 腎臓内科医師

寺下 真帆 腎臓内科医師

葉末 亮 リウマチ科医師

片岡 崇 循環器内科医師

鈴木 麻友

横井 英人

尾崎 創

佐藤 愛

井上 明子

河野 優

★採用

(平成29年4月1日付け)

高木 康治 泌尿器科部長

鶴迫 伸一 第二歯科口腔外科部長

松平 哲史 脳神経外科部長

松下 明弘 呼吸器内科副部長

篠原 周一 呼吸器外科医師

渡部 彩子 脳神経外科医師

柴田 昌志 脳神経外科医師

循環器内科医師

呼吸器内科医師

糖尿病・内分泌内科医師

糖尿病・内分泌内科医師

産婦人科医師

麻酔科医師

田中 佑資

北村 文也

渡邊 剛史

中村 嘉宏

西川 佳典

上野 孝之

則竹 夕真

岩田 誠子

★補職

(平成29年4月1日付け)

寺島 照雄 第五整形外科部長

宿輪 和孝 第三消化器内科部長

坂井 隆夫 眼科部長

松本 智宏 整形外科副部長

草間 実 糖尿病・内分泌内科副部長

糖尿病・内分泌内科医師

腎臓内科医師

リウマチ科医師

リウマチ科医師

循環器内科医師

心療内科医師

産婦人科医師

小児科医師

当院の理念

納得、安心、そして未来へ

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室 (平日 8:15~19:30)

052-652-5950 (TEL)

052-652-5716 (FAX)

室 長: 加藤 文彦 (院長)
坂口 憲史 (副院長)
事務担当: 峯垣 知広・今関 信夫・
金井 久実